

令和三年度 奈良県租税教育推進連絡協議会長賞

税金があるのとないの

奈良県立奈良南高等学校 一年 蓑田 琉偉

皆さんは税金がどのような仕組みか知っていますか。僕は、小学生、中学生そして高校生になるにつれて税に関することの勉強であったり、どのような働きをしているのかを少しずつ知ってきているところだと思います。

税金があることで私たちが支えられているところは次のようなものです。まず、病院などの医療機関。学生が安全・安心で学業が学べる中学校など。私たちを守ってくれる警察署。災害などが起こったときの救助ヘリなどの乗り物など。が税金によって作られているものです。

もしも税金がなかったらどうなってしまうのか。僕はこう思いました。病気にかかってしまったとき、税金がなく病院がなく、薬が手に入らない。人は亡くなってしまふ。学校がない。十分な勉強を学ぶことができず、大人になるにつれ必要な情報を得ることすらできずに成長してしまふ。警察署がなければ警察官もいない。よからぬ事をしようとする人たちがやりたい放題になってしまふ。災害が起こっても救助がどこにもこない。災害に巻き込まれた人々は身動きが取れないままどうすることもできなくなる。このようなことになると助かる人も助からず無駄な犠牲者が出てしまふ。税金があるのとないのでは大きな違いがあると僕は思いました。

僕は「なぜ、税金って払わないといけないのか」と思ったことがあったり聞いたりしたことがあります。でもよくよく考えてみると税金を支払うということは、自分や家族まわりの人たちを守るために必要不可欠なものだと気付きました。

税金があることで人の人生にかかわることは、次のようなことだと思います。病気にかかっても元気にまたなれる。小さいころからしっかりと学習をし沢山の知識を得ることができる。高齢者や障害者にやさしい町づくりであったり、バリアフリーができる。このようにもっと多くのことが税金によって支えられていると思います。

僕は改めて税金について考えて、税金を嫌な気持ちで支払うのではなく自分にプラスとなる思いで支払っていこうと感ずることができました。